



Faculty of Economics

CHALLENGE STORIES OF STUDYING ABROAD

龍谷大学経済学部 留学チャレンジストーリー

キャンパスの外へ飛びだそう

龍谷大学経済学部を「学びの拠点」としつつ、外に飛び出してみましょ。初めて足を踏み入れる環境・文化に驚き戸惑い、初めて自分の国を客観的に見ることができます。留学は将来への「投資」です。リスクを伴いますが、そこで得られたものは、かけがえない人生の「財産」となります。

留学前なら、到底なしえないと思っていたことに、今なら挑戦できます。

そんな、現在進行形6名のチャレンジストーリーを紹介します。

交換留学	p.1
私費留学	p.2
BIE Program (Semester・5-week)	p.3・4
海外フィールド実習 (経済学部専攻科目) <small>経済学部のみ</small>	p.5
個人留学 (休学して留学)	p.6
単位認定、留学中の演習履修、奨学金等について	p.7

You,
Unlimited



龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

交換留学

経済学部 留学実績 マドック大学(オーストラリア)、バルセロナ自治大学(スペイン)、東フィンランド大学(フィンランド)、セントラル・ランカシャー大学(イギリス)、上海師範大学(中国)等

交換留学は、本学の学生交換協定校へ代表として派遣されるもので、学費の免除はもちろん、協定校によっては奨学金を受けることも可能な制度です。留学期間は、原則、1年間です。

交換留学のメリット

- 留学中の学費免除(ただし、留学在籍料が必要)
- 協定校によっては奨学金支給や宿舍費免除もあり
- 単位認定可能
- 【奨学金情報】海外留学支援制度^(※1)採択実績あり
- 1年間に最大3回の応募が可能



津曲 敦子 さん

国際経済学科 英語コミュニケーションコース

留学していた学年	4年生後期～5年生前期(期間:1年間)
留学先	ワルシャワ経済大学(ポーランド)
単位認定科目	なし(希望せず)

1 留学を決めたきっかけや目的は?

高校から英語科に所属しており、英語の学習や留学に興味がありました。そのため、1年の秋、BIE Program(Semester)でアメリカへの語学留学を経験しました。そのあと2年の春休みに訪れたフィリピンへのスタディツアーを通してフェアトレードという活動を知り、マーケティングやマネジメントという経営の分野にも興味を持つようになりました。

経済学だけでなく、経営の分野の学習を深め、また英語でその分野を学びたいと思っていたところ、交換留学の提携先に、経済と経営の分野に特化した大学があることを知り、また英語で受講可能であるため、応募しました。

2 留学先での学びの内容は?

前述のように経営の分野に興味があったので、マーケティングやマネジメントなどの科目を受講していました。「Marketing Communication」、「Service Marketing」、「Quality Management」、「Ethics in Business」、「Advertising」など、これらは、実際に受けていた科目です。Workshop形式が多く、実際にケーススタディを通して理解を深め、科目によってはグループに分かれて実際にSWOT分析を行うなど、調査し、プレゼンテーションをすることが多く、身をもって学ぶことができました。先生にも質問しやすい環境があり、グループでは友人が親身になって手伝ってくれたり、有意義に過ごすことができました。ヨーロッパの学生はとても優秀で、授業だけでなく、周りの環境にも良い刺激を受けました。



先生にも質問しやすい環境があり、グループでは友人が親身になって手伝ってくれたり、有意義に過ごすことができました。ヨーロッパの学生はとても優秀で、授業だけでなく、周りの環境にも良い刺激を受けました。

3 自らが成長できたと感じる点、今後に活かしたい点は?

英語でのプレゼンテーション能力です。マーケティングに関する科目以外では、プレゼンテーション能力を向上させる「Public Speaking」という科目を受講し、いかに効果的に観衆に伝えるかというのを座学と

して学んだあと、実際に個人やペアに分かれプレゼンを複数回行いました。その都度ビデオカメラでプレゼンテーションの様子を撮影し、クラスメイトとともに見ます。先生とクラスメイトからのフィードバックを受けて改善を繰り返して行きました。また自分を客観的に見ることで現在の自分の状態を確認した後、成長した部分を実感できるため非常に効果的な授業だったと思います。

プレゼンテーション能力というのは日本人が不得意とする能力だと思います。帰国後、国際的に活躍している商社に内定を頂いたので、そちらでの営業活動に生かしていけるのではと考えています。

4 留学を考えている学生へのアドバイス

留学を少しでも考えているなら、何としてでもすべきだと思います。もちろん費用や単位の心配や就職活動に影響するのではと、簡単には決められないことです。しかし、18～22歳という若い時期に海外に身を置き、日本では経験できないことを体験することは、これからの人生の財産になると思います。

私の場合は、卒業を1年延ばしてまで行った交換留学でしたが、後悔したことはありません。龍谷大学の交換留学は、他の留学に比べて費用が安かったことも大きく、その上奨学金(※1)をもらうこともできて、非常に充実した生活を送ることができました。また、単位に関しては4年での留学で、ほとんど取得してから行ったので、心配はありませんでした。

就職活動については多少不安ではあったのですが、柔軟に対応してくださる企業も多いですし、龍谷大学のキャリアセンターが提供している情報などもチェックすることで時期を逃すことなく対応できます。そのほか海外にいる間にも『キャリアフォーラム』というバイリンガルの学生向けの就職説明会が、アメリカ本土～ヨーロッパと多くの都市で開催されているのでそういったものに参加するのもお勧めです。



私費留学

私費留学は、自分で留学先を決定し、希望する大学(原則として、学士を取得できる4年制大学、またはその大学付属語学学校に限る)に自分で願書を提出し、入学許可を受け、本学の許可を受けて留学する制度です。留学期間は、1年間または半年間です。

私費留学のメリット

- 留学中の学費免除(ただし、留学在籍料が必要)
- 単位認定可能
- 留学先・留学期間を自分で選択可能

- 【奨学金情報】私費派遣留学生奨励奨学金制度あり(15万円給付)
前期出発者:前年度12月初旬募集(予定)
 後期出発者:6月初旬募集(予定)



前田 隼人 さん

国際経済学科 英語コミュニケーションコース

留学していた学年	2年生後期(期間:半年間)
留学先	ワシントン大学(アメリカ)
単位認定科目	英語コミュニケーションコース科目を中心に8科目の合計19単位

1 留学先での学びの内容は?

「Downtown Intensive English Program」というコースを受講しました。そのコースは、中間テストや期末テストといったものは無く、定期的にプレゼンテーションが行われ、それが評価の対象でした(英語レベル次第では、学部授業や社会人向けのビジネスコースも受講可能でした)。



また、授業以外にも、課外活動が盛んに行われ、アメリカ文化を体験する事も可能でした。具体的には、市街地でのインタビュー調査、全世界から集まった優秀な学生との意見交換会などです(幸い、ワシントン大学は世界的にも優秀な大学であり、全世界から特定分野を学びに学生が集まっていた)。これらを経験する中で、刺激的で実りの多い毎日過ごす事が出来ました。

2 自らが成長できたと感じる点、今後に活かしたい点は?

語学力は言うまでもなく、積極性・行動力が一番向上したと思っています。これは、アメリカ人特有の積極性を間近で体験する中で、身に付けられたことだと感じています。

帰国前に、アメリカ一周旅行をしたのですが、その頃には、既に身に付けた積極性や行動力を活かして、訪問先でも、積極的に話しかけることができました。その結果、更なる英語能力の向上へと繋がり、トラブルもなく楽しく終えることができました。

私は、これらの経験を通じて得た積極性を活かしていきたいと考えて

います。アメリカでの留学経験を通じて身に付けられた事は、どの世界でも通用すると自負しています。

3 留学を考えている学生へのアドバイス

私は来年ニューヨークのある企業で、1年間インターン生として働かせていただくことが決まっています。留学前の私なら、想像もしなかったことです。それ程、留学先での経験は、私の人生にとって大きな影響をもたらすものでした。

今、これを読んでいるあなたは、少なからず留学・海外生活に興味があるはずです。そして、迷っていることでしょう。その理由は何ですか。費用?恐怖?それは、留学前なら誰しも感じるものです。

自分に合った留学環境を選ぶコツとして、なにより多くの情報を手に入れ、比較し、検討、そして自分自身のそこでの活躍をイメージすることです。そのためには、インターネットの情報だけでなく、経験者と話をし、そして、留学セミナーなどで相談することです。それらの結果、自分の活躍がイメージできれば、準備万端だと考えて良いと思います。



BIE Program (Semester)

BIE Programは、本学の海外拠点であるRUBeC (Ryukoku University Berkeley Center) を利用した本学独自の留学プログラムです。Semester Programの留学期間は半年間です。

BIE Program Semester のメリット

- 安心のサポート体制
- 単位認定される本学独自のプログラム(英語学習、ボランティア活動、講義)
- 【奨学金情報】成績優秀者への奨学金給付制度あり(30万円・最大2名)



前川 竣 さん

現代経済学科

留学していた学年	1年生後期(期間:4ヶ月半)
留学先	アメリカ、カリフォルニア
単位認定科目	18単位

1 留学を決めたきっかけや目的は?

留学を決めた当時、正直言って、海外が大好きというわけではありませんでした。たまたま、その時仲の良かった友達が、BIE Programのことを教えてくれました。

特に目的もなく、毎日をダラダラと過ごしていた自分にとって、海外に4ヶ月半の間留学するというのは、すごく刺激的な響きに聞こえました。だから行ってみようと思えた。理由といえばたったそれだけです。

2 留学先での学びの内容は?



BIE Programは、英語学習、ボランティア活動、講義を組み合わせた留学です。

活動の中心は語学学校に通って英語を学ぶこととなりますが、約1ヶ月間、ボランティア活動に参加する機会があります。私が参加したのは教育に関するボランティアで、小学校で子どもたちの学習のサポートをしました。

日本での学習とは違い、自分がどれだけ主体性を持って学習に臨めるかということが重視されます。

3 自らが成長できたと感じる点、今後に活かしたい点は?

まず、学びに対しての姿勢が変わります。

留学中、時間を見つけ、一人で町に繰り出しているうちに、あるカフェに通うようになっていました。そこには常連の方々が居て、ほぼ毎日、話をしに行きました。授業のこと、日本のこと、趣味のこと。前よりも英語がうまくなれたのは言うまでもなく、自分と全く異なる価値観の人と話す



時間は、とても勉強になりました。

そして、気付けば、自分もそのカフェの常連になっていました。自分を暖かく迎え入れてくれたあの場所は、いつか自分が将来創りたい場所になりました。たった4ヶ月半でしたが、私の人生でもっとも大切な4ヶ月半です。

4 留学を考えている学生へのアドバイス

僕は来年から交換留学にいきます。次は1年間です。国際学部でなくとも、交換留学という決心ができたのはあの4ヶ月半があったからです。

BIE Programに参加する時の動機はあやふやなものでした。しかし、今は将来の夢を実現させるためにオーストラリアに行きます。夢はカフェ経営です。この夢もアメリカで見つけました。

新しい世界を知りたいと思う事に理由はありません。やるもやらないも自分次第。留学は逃げませんが、時間はどんどん過ぎていきます。たった一歩でいいんです。ぜひ、踏み出してみてください。



BIE Program (5-week)

BIE Programは、本学の海外拠点であるRUBeC (Ryukoku University Berkeley Center) を利用した本学独自の留学プログラムです。5-week Programの留学期間は5週間です。

BIE Program 5-week のメリット

- 安心のサポート体制
- 単位認定される本学独自のプログラム (英語学習、ボランティア活動、講義)
- 夏期休業、春期休業を利用して留学可能
- 【奨学金情報】成績優秀者への奨学金給付制度あり (10万円・最大2名)



岡本 あずみ さん

国際経済学科 英語コミュニケーションコース

留学していた学年	1年生後期 春期休業中(期間:5週間)
留学先	アメリカ、カリフォルニア
単位認定科目	6単位

1 留学を決めたきっかけや目的は？

高校の頃から留学に興味があった事をきっかけに、留学することを決意しました。その時は、漠然と留学をしたいという気持ちしかなく、具体的な目標はありませんでした。留学説明会などに参加し、調べるうちに、留学をして語学力を上げたいという思いが強くなりました。

私がBIE Programを選択した理由は、語学の勉強だけでなく、ボランティア活動も経験することができると知ったからです。龍谷大学でしか体験できない留学プログラムだと考え、参加しました。

英語力に、不安がありましたが、BIE Programは、語学レベルを問わないプログラムだったことが、決め手となりました。そして、もう一つの決め手となったのが、春期休業を利用して留学ができるということでした。

2 留学先での学びの内容は？

留学先では、語学の勉強のほかにアメリカの歴史を学び、現地の方たちとボランティア活動をしました。



語学の授業では、サウジアラビアやメキシコといったたくさんの国から来ている留学生と一緒に授業を受けました。また、自分のレベルに合ったクラスで授業を受けることができます。私が受けていた授業は主に発言することに重きをおかれていました。日本では、学生全員が黒板に向かって座っていますが、アメリカでは、半円形の形になっていたため、皆の顔が見え、発言している人もわかりますし、グループワークも行いやすかったです。



アメリカの歴史については、龍谷大学の学生と一緒に勉強します。あまり分からなくても、日本人スタッフのサポートもあるので、心配いりません。ボランティア活動では、作業をしながらコミュニケーションをとる機会がたくさんありました。わからないことがあれば質問に親切に答えてもらったり、わかりやすく教えてもらったり、とても充実した内容でした。

3 留学を考えている学生へのアドバイス

初めての留学で不安な気持ちがある人は、このBIE Programをお勧めします。全く一人だけの留学ではないし、現地に行けばサポーターの方もおられます。なので安心して語学の勉強に励むことができます。

私自身、留学するのは初めてで、英語も十分に話せず、不安はたくさんありました。留学と言えはいつでもしようと思えばできるものですが、大学時代に留学するから得られるものがたくさんあると思います。



経済学部
のみ

海外フィールド実習 (経済学部専攻科目)

海外フィールド実習は、夏期休業期間を利用した途上国でのフィールドワーク(スタディツアー、ボランティア研修等への参加)と講義形式の事後学習を組み合わせた、経済学部の専攻科目です。

海外フィールド
実習のメリット



- フィールドワーク費用の一部を経済学部が補助(3万円)
- 夏期休業を利用して留学に参加可能
- 途上国の現状や課題を座学と現地実習の両面から理解

- 学部専攻科目として単位認定
(4単位・履修制限対象外)



佐々木 隆徳 さん

現代経済学科

留学していた学年	3年生 夏期休業中(期間:2週間)
留学先	フィリピン
単位認定科目	海外フィールド実習(経済学部国際経済学科科目)4単位

1 留学を決めたきっかけや目的は?

私は学生時代に1度は海外に勉強をしに行きたいと思っていましたが、金銭面や海外への不安等で、なかなか踏み出せないまま3年になってしまいました。

そんな時、周りの先輩や友人たちがNGO団体が行うスタディツアーを強く勧めてくれました。ツアーのコンセプトは、フィリピンを訪れ、貧困の現状や原因について考えるツアーというものでしたが、先輩方は「自分の価値観が180度変わった」、「自分自身について深く考えられた」と話されました。この時、私はこのツアーに参加すれば、自分も刺激を受けて何か変わるのではないかと思い、参加を決意しました。



また、フィリピンという国が本当に貧困なのかどうかを見極めたいという思いもありました。よく募金のポスターなどで貧困に苦しんでいる子供たちの様子を目にしましたが、日本とはかけ離れていて、あまり実感が湧きませんでした。その現場に実際に訪れ自分の目で確かめたいというのも1つの目的でした。

2 留学先での学びの内容は?

フィリピンの歴史や医療問題、格差、貧困について主に学びました。その中でも特に興味を持ったのが『ゴミ山問題』です。



フィリピンでは焼却炉が無いため、いたるところにゴミ山が存在しています。そしてそのゴミ山で廃品回収を行い生計を立てる人々がありますが、彼らの収入は1日僅か50~100ペソ(日本円で130~260円)、月に3000ペソ(日本円で約7800円)。4人家族でギリギリの

収入。それでも足りない場合、ゴミ山の中から食べられそうなものを見つけ出し食べるそうです。本当に驚きました。あのゴミ山の中から見つけた物を食べるということが、信じられなかったからです。しかし、そうとは分かっているにもかかわらず、食えなければいけない状況。「飢え死ぬよりは良い」。とても厳しい生活を送っていることが見受けられました。

生まれた国が違うだけで、こうも暮らしが違うのか、と衝撃を受けました。自分が何気なく過ごしてきた生活が当たり前ではないことを実感したと同時に、フィリピンの貧困の状況を目の当たりにした瞬間でした。

3 自らが成長できたと感じる点、今後活かしたい点は?

以前よりも自分で考え判断する力が身に付いたと感じます。

今回のツアーに参加するまでは、フィリピンは貧困に苦しんでいる国という曖昧なイメージしかありませんでした。しかし、それだけではない発見が数多くあり、考えが変わりました。自分の目で見て聞いて、現地の人と交流をする中でフィリピンという国の温かさを感じることができました。実際に自分で経験したことは、他人から聞くことよりも間違いのないものになるはずですよ。

また、メンバーも大学生だけではなく、下は高校生、上は定年近い方まで幅広い年代がいたため、様々な意見が交わされました。自分一人では思いつきもしない斬新な意見や真逆の意見が出て、色々な角度から物事を考えられるようになりました。



個人留学 (休学して留学)

個人留学は、休学して個人で留学するものです。単位認定はされませんが、期間、渡航先、留学目的など、自分で自由に決めることができます。単位認定は気にしないという人が利用することがあります。

個人留学の メリット



■各種留学制度の条件にあわない場合でも留学可能



前田 夏奈子 さん

経済学部 国際経済学科

留学していた学年	3年生(期間:約10ヶ月)
留学先	アメリカ・イギリス(2ヶ所)
単位認定科目	単位認定対象外

1 留学を決めたきっかけや目的は？

私が留学を決意したのは大学生になって参加した2つの海外研修で異文化に接する楽しさと英語習得の必要性を感じたからです。大学1年の時にゼミの研究の一環で参加したカンボジアへのスタディツアーでは、小学校や農村、NGOの施設を訪問しました。研修前のカンボジアについてのイメージは、貧困が深刻で人々は苦しい生活をしているという考えがありましたが、実際、私が目にしたのは、小学校に通っている子どもたちの笑顔でした。たとえGDPが低い国でも幸福に暮らしている人たちがいることや、価値観の違いを知りました。

翌年の2年生の夏休みに龍谷大学のボランティアセンターで募集していたグアム・パラオ共和国への海外研修に参加し、グアム観光局や政府を訪問し、主に経済、政治状況について話を伺いました。

その際、簡単な英語で質問を尋ねるのが精一杯で、聞き取りができない苦い経験をしました。異なる文化を持つ国同士がいかに関係を築くのか、国際経済学を学ぶ上で政治と経済は切り離せないものであることに気づき、英語がコミュニケーションツールとして使えるようになればより学びが広がり国を越えて多くの人の意見を聞くことができるのではないかと考えるようになりました。

2 留学先での学びの内容は？

私はアメリカに5ヶ月滞在後、イギリスへ渡りました。移民を受け入れている国が多く様々な文化がより入り混じった場所であるヨーロッパに行きたいと思うようになったことがきっかけでした。また、ちょうど私の通っていた学校は世界規模で展開している学校であったため転校が可能であり、残りの5ヶ月間をイギリスで過ごしました。

私の通っていた学校には様々なバックグラウンドを持った学生が在籍しており、国籍も様々でした。学校では、話す・読む・聞く・書くの4技能を基礎から学びました。授業の中ではディスカッションが多く、毎回トピックが与えられ、それについて議論をしていくというのが主でした。トピックの内容は環境問題・貧困・人権や差別・スポーツや芸術といったあら

ゆる分野のものでした。

日本で受け身の授業を受けてきた私は議論の中になかなかとびこんでいくことができませんでした。それでも私の考えを伝えたい、日本のケースをシェアしたいという思いがあり、自分なりにみんなに伝えていく工夫をしました。

3 自らが成長できたと感じる点、 今後に活かしたい点は？

予定通りに行かないこと、自分がそうなって当然だろうと思っていることがその通りにいかないことが、日々の生活の中でよくありました。

そんな時にいかにそこから柔軟に対応していくか、という力が日々鍛えられました。文化的背景や社会的習慣が異なる人たちと共に生活する中で固定概念にとらわれず物事を考えていくこと、人と接していくことができるようになったと感じています。

今後、グローバル化はますます進み、2020年のオリンピック開催に伴い多くの外国人が日本を訪れ、世界の様々な人々や文化との接触が増えてきます。その中で異文化に対する認識や対応は、とても重要だと思えます。留学をきっかけに自国の文化を見つめ直すようになり、日本の文化や伝統をもっと知ってもらいたい、世界に発信していきたいと強く思うようになりました。



単位認定、留学中の演習履修、奨学金等について

単位認定について

交換留学 | 私費留学

留学中の単位を卒業要件単位として認定できます。単位認定をするためには、提出書類を元に、留学先で取得した科目が本学で開講している科目の単位に読み替え可能か、授業時間を満たしているか等を確認する必要があります。事前に経済学部教務課で相談してください。

BIE Program

単位認定方法については、BIE Programに行くことが決まったら、速やかに経済学部教務課で確認してください。Semesterの場合は最大18単位、5-weekの場合は最大6単位認定されます。

海外留学中の演習履修について

交換留学 | 私費留学 | BIE Program

経済学部では、留学中の演習履修について、BIE Programのみ認めてきましたが、2016年度前期出発以降の留学から、演習履修の申請が可能となりました。希望者は、必ず経済学部教務課で詳細を確認してください。

学部共通コース所属生

学部共通コース所属生については、単位認定方法が異なりますので、経済学部教務課に相談に来るとともに、必ずコース担当の教学部に相談してください。

奨学金について

各ページで紹介した奨学金の他にも、募集している奨学金があります。

本学ホームページ【HOME>国際交流>海外への留学プログラム>海外留学のための奨学金】および留学ガイドの奨学金のページを確認してください。

英語力を向上させることができる経済学部専攻科目 経済学部のみ

教養教育科目の外国語以外に、経済学部では、以下のようなコミュニケーション能力育成科目を開講しています。

経済英語Ⅰ、経済英語Ⅱ、経済英語Ⅲ（Ⅰは1～4年次、Ⅱ・Ⅲは2～4年次配当）

留学英語Ⅰ、留学英語Ⅱ、留学英語Ⅲ、留学英語Ⅳ（2～4年次配当）

Business CommunicationⅠ、Business CommunicationⅡ（3～4年次配当）

TOEIC®(IP試験)受験料全額補助 経済学部のみ

TOEIC®は、世界約150ヶ国で実施されている、英語コミュニケーション能力を総合的に判断するテストです。可否ではなくスコアで評価され、就職活動の際に、履歴書に記載できる資格としても支持されています。経済学部では、英語学修支援のため、受験料を全額補助しています。

その他 留学に関する情報

本学ホームページ【HOME>国際交流】において、各種留学情報を発信中です。

> 海外への留学プログラム・・・留学制度の説明や説明会情報など

> 交換留学マンスリーレポート・・・交換留学に行っている学生からの現地情報

また、グローバル教育推進センター発行の「留学ガイド」も留学情報や留学体験記が満載です。

